

# 富山市立 大久保小学校



## 命あふれる、発見と感動のビオトープ

### 富山市立 大久保小学校

校長：五十嵐 俊子

指導教諭：島田 浩幸

発表児童：4年生(12名)



学びとふれあいのある学校花壇を目指して本校では、児童481名が一人一鉢の花を育てている。4年生は、校内を流れる用水の水を引いて「自然と生き物いっぱいビオトープ」を造りたいと願った。地域の方や保護者の協力を得て取り組む中で、子どもたちは本物の自然とかかわり、目を輝かせ多くの発見をした。この度「大好き大久保！四季を彩るふるさと花壇」やこの自然体験コーナーが認められ、「花の町づくり大賞」(農林水産大臣賞)を受賞した。



### 発表テーマ

#### 『命をはぐくもう～せせらぎビオトープづくりを通して～』

今年度より校内にビオトープをつくり、生き物の命がはぐくまれる環境を目指しました。子どもたちは「自然と生き物いっぱいビオトープ」を合言葉に、豊かな自然を再現すること、多様な生き物が育つビオトープにすることを目標として活動を開始しました。子どもたちは校区の川に行き、生き物をつかまえたり、ビオトープに放したりして、生き物が育つ様子を見守りながら学習を進めています。時には、ビオトープから水がなくなるなどのトラブルを乗り越えながらも、前向きに活動に取り組み、自然と生き物いっぱいのビオトープを目指して日々活動に取り組んでいます。

島田 浩幸 先生より

#### 生き物と自然のつながりを感じ取ることができる せせらぎビオトープ

せせらぎビオトープ作りを通して、子どもたちは生き物の命の尊さ、水の大切さ、自然とのかかわりについて学ぶことができました。

最初は単に「魚がいっぱいの場所を作るの？おもしろそう！」とか「魚をとりに川に行くの？やったあ！」と簡単に考えていた子どもたちでしたが、活動を進めるうちに、「魚たちにとってすみやすい環境って何だろう？」と考えるようになり、「自然と生き物の結びつきはけっこう重要だぞ。」と考える子どもたちの姿に結びついていきました。水がなくなり、魚たちの死を目の当たりにしたことも、子どもたちの命を見つめる姿勢に変化をもたらしました。ビオトープを見つめ続けることで、生き物と自然の結びつき、尊さをたくさん学ぶことができました。今後も取り組みを進めていきたいと思えます。



▲地元の業者さんにピオトープを作ってもらっている様子です。



▲地元の急滝川に行き、生き物＆自然調査。川の流れのすごさにみんなびっくりに。



▲地元のおいの川に行き、生き物＆自然調査。ゆったりした流れの中でたくさんの生き物を発見しました。



▲地元の川でとれた生き物をピオトープに放します。元気に泳いでね。



▲科学博物館の先生にも自然と生き物のつながりの大切さを教えてもらいました。



▲水がなくなるトラブルも。でもたくましく生き延びる生き物たちのたくましさ感動しました。



◀自然が豊かなピオトープになるようにみんなで植物や木を植えます。自然と生き物がいっぱいピオトープになるようがんばるぞ。

## 考えたこと！ 感じたこと！



### 木下 紗緒里 (4年生)

わたしは2つのことを感じました。1つは水の大切さです。水があつてふつうだと思っていたけど、実は水はとても大切で、昔の人が大事にしていた水をこれからも受け継いでいきたいです。もう1つは自然と生き物がたくさんのピオトープにするには、たくさんの人の協力が必要と分かりました。これからもがんばりたいです。

### 合林 凜平 (4年生)

ほくがピオトープでの学習を通して思ったことは、人や植物や動物などすべての生き物にとって水は本当にかげがえのないものだということです。だからこれからも水や自然を大切に、生き物も大事にしたいです。これから生き物が1年間を通してずっと元気で生きていけるよう、見守ってみたいです。

## 学習テーマの設定

用水は先人の苦勞のおかげ

大久保は350年前は田畑も作れない荒地でした。豊かな土地に変えようと、岡崎孫次郎と岡田屋嘉兵衛が苦勞して大久保用水を造り、田畑が広がる実り豊かな土地になりました。



用水の恵みで命を育てる

校内を流れる用水をピオトープに入れて、自然と生き物でいっぱいしよう！地元の業者の人に池を広げてもらい、夏休みには親子で石を敷き、水を流すと小さな魚たちが泳ぎ始めました。

## 学習の展開

自分たちで生き物を増やす

2学期、ピオトープの開始式を行いゲートに網をつけました。これからは、地域にいる生き物を育て、外来生物を持ち込まないようにして、私たちが生き物を増やそうと話しました。



身近な水辺の生き物を調査

地域の水辺にはどんな生き物があるのかな？おいの川、急滝川へ行って調べ、水生生物を観察し、つかまえることができました。いろいろな生き物が自然の中でしっかり生きていました。

水がなくなり気づいたこと

10月、大問題発生！上流での工事で水が流れなくなり、たくさんの魚が死んでいました。悔しくて悲しかった。でもすべての生き物にとって水がかげがえのないものだ気づきました。



命のたくましさ感動！

次の日、水はいつものように流れて魚たちが泳いでいた！生命のたくましさ感動。ピオトープの取り組みは始まったばかりですが、自然や水の大切さなどたくさんのことに気づきました。

未来の自然を守り育てたい

生き物たちは冬を越せるか心配…でもこれからもピオトープを見守ります。未来の自然を守り育てていくのは私たち。自然と生き物を大切にできるようこれからもがんばっていききたい。

